

| | |
|--|-------------|
| 実施日： 11 月 30 日 (6 校時) | |
| 領 域： 総合的な学習の時間 | |
| 取組名： スマホケータイから学ぶ人権教室 | |
| 対 象： 6 年生 | 実施場所： 6 年教室 |
| ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や相手の人権を大切にした言葉を使おうとする態度を養う。 | |
| イ 指導内容 (指導略案) や取組の概要 <p>【児童・学級の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 年生は、インターネットにつながる機器を持っている人が約 70% いる。 ・ テレビやゲーム、インターネット機器等を見る時間が 2 ～ 4 時間の人が約 30% おり、4 時間以上の人が約 20% いる。 ・ SNS 等が原因で児童間トラブルになる児童が複数人いた。 <p>【第 1 次 の学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な話題を取り上げ、想いを共有できる体験をする。(・ スクリーンに大谷翔平選手を映す) ・ めあてを示す。 ・ 「あゆみちゃんの SNS は、なぜ炎上したのだろう。」(・ スクリーンに SNS のやりとりを映す) ・ 文字としての言葉は、使い方によって伝わり方が変わる体験をする。 ・ 体験を通して考えたことを話し合わせる。 ・ ふり返りをする。 | |
| ウ 連携先： 人権擁護委員、校内研修、家庭 | |
| エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修において事前研究を行う。 ・ 人権擁護委員に学級の実態を伝え、事前打合せを行う。 ・ 学校だより・学級通信等で啓発活動を行う。 | |
| オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ ふり返りをもとに、校内研修で活動報告をし、取組の点検・評価を行う。 ・ 人権擁護委員と事後研究を行い、今後の人権教育の在り方について協議する。 ・ 授業のアンケートを基に、人権意識について点検・評価する。 | |
| カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート、アンケート | |
| キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 文字だけでは「気持ち」や「思い」は伝わりにくいことに気付くことができた児童が多かった。 ・ 対面での会話等のコミュニケーションの良さに気付く児童も多かった。 ・ 人権擁護委員と連携することで、学級担任・学校職員との授業に加えて人権学習がより深まった。 | |
| ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット、YouTube、SNS 等の普及は低年齢化しており、6 年生だけの指導で留まってはならず、低学年の人権教育カリキュラムにもメディアリテラシーの視点を落とし込んでいかなければならない。 | |